

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問十二（出典：『宇治拾遺物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

その比、延喜の御門、重くわづらはせ給ひて、さまざまの御祈りども、御修法、御読経など、よろづに
せらるれど、さらにえ怠らせ給はず。ある人の申すやう、「河内国信貴と申す所に、この年ごろ
行ひて、里へ出づることもせぬ聖候ふなり。それこそいみじく貴く験ありて、鉢を飛ばし、さてゐながら、
よろづあり難きことをし給ふなれ。それを召して、祈らせさせ給はば、怠らせ給ひなん
かし」と申せば、「さらば」とて、藏人を御使にて召しに遣はす。

行きて見るに、聖のさま殊に貴くめでたし。かうかう宣旨にて召すなり。とくとく参るべきよしへ
ば、聖、「何しに召すぞ」とて、さらさら動きげもなければ、「かうかう御悩大事におはします。祈り
参らせ給へ」といへば、「それは参らずとも、ここながら（※1）祈り参らせ候はん」といふ。

※1…テキストでは脱落している箇所。しかし原文にはこの傍線部が存在しており、実際この箇所がなければ
文脈として不自然である。

◎現代語訳（↓『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）